



題字：川上早苗

NPO さんまクラブ

ニュースレター



編集：廣田夏実
発行責任：谷村徳幸

2016年8月9日 夏休みさんまクラブより「児童公園で木登り」

巻頭言

“風” となる

石田原さやか（水口幼稚園教諭）

水口幼稚園の職員室に、1枚のクラス写真が貼られています。それはある年の年長児のお別れ遠足としてスケートに行った時の集合写真です。最前列の、ど真ん中にはにこやかにシーティング（特殊な車椅子）に座る“こうちゃん”、そして周りを囲む子どもたち、階段にずらりと並んでいるので、私はひそかに“こうちゃん内閣”と呼んでいます（笑）。

私の保育人生において、“こうちゃん”との出会いはとても大きなものとなりました。こうちゃんは生まれつきの脊髄性筋萎縮症で、座位が保てず、シーティングで生活していました。食事はすべて経管栄養、1時間のうちに数回、痰の吸引をし、夜寝る時には呼吸が弱まるため人工呼吸器が必要という状態でした。にもかかわらず、ご両親が入園の相談に来られた時、エンチャーは二つ返事で「どうぞお越してください。」と…。長年の付き合いにもなりますし（笑）、今となっては「さすがエンチャー！」と言えるのですが、当時は「え？大丈夫！？看護師見つかる！？準備間に合う！？」と、内心焦ったのを覚えています。

とにかくにもこうちゃんが入園して2年目に、私は年長担任としてこうちゃんと共に過ごすことになりました。エンチョーにいつも言われていたことは「弱い子ども、気になる子ども中心の保育を」ということでした。

「こうちゃん中心の保育」って??無我夢中で始めた保育でしたが、毎日の保育プログラム、そして園外保育等の行事すべてに、まずこうちゃんがどのように参加できるかを考えました。そして結論から言うと、なんでも実現できたのです。絵を描くときはベッドに横になって少し動かせる手で筆を持ち、筆を洗ったり、色を替えるのは、横で見守る友だちがしました。運動会のリレーは3チームすべてに車椅子を配置、保育者と子ども2人が押して、爆走(!)しました。山登りは保育者が交代で抱いて歩き、シーティングは子どもたちがおみこしのように担ぎ上げました。お泊りキャンプは人工呼吸器を持ち込み、夜通し交代で様子を見守りました。スケートはシーティングのまま氷上に乗り、スケートが得意でまだ若かった(笑)エンチョーが押し、みんなと滑りました。経験が少なく、怖がりやで引っ込み思案だったこうちゃんは少しずつなんでも「やってみる!」と言うようになりました。そして周りの子どもたちは一緒に過ごす中で、移動時にさっとこうちゃんのシーティングを押し(誰が押すかでケンカもしましたが)、こうちゃんの小さな声も聞きとれるようになりました。何かしようとクラスで計画を立てる時、「こうちゃんはどうする?」と考えられるようになりました。こうちゃんは人生でとびきりの経験をたくさんしましたし、それは他の子どもたちや保育者にとっても、人生とびきりの経験となったのです。

「弱い子ども中心の保育」=「弱者中心の社会」これは社会の在り方として最も大切なことの一つであると思います。同時に現在失われつつあることの一つでもあります。弱者に優しい社会はみんなに優しい社会でもあると思うのです。強者の側に立ちがちな私自身が生きていくのに意識したいことの一つでもあります。

この学年のクラスだよりを“風”としました。こうちゃんと仲間たちみんなで一つの風を起こし社会を動かそう、そんな願いと希望を持って付けました。彼らの根っこに染み込んだ大切な気づきと学びがいつか再び“風”を起こしてくれる、そう信じて今日も保育の現場に立っています。



連載 「居場所」を考える ～第8回～

“クローゼットから出る”こと

堀江有里¹

■「カミングアウト」という言葉

自分が同性愛者（レズビアン・ゲイ）であることを表明する行為を「カミングアウト」といいます。

わたしたちは、カミングアウトを「告白」という意味で受け止めていることが多いのではないのでしょうか。ある人が、ほかの人——もしくは複数の人びと——に秘密にしている“何か”について勇気をもって伝える、という意味での「告白」です。言葉は、ときに、時代や文化のなかで、その使用方法や意味内容をたがえていくことがあります。カミングアウトも、当初の意図とは、ずいぶんかけ離れてしまったもののひとつです。

カミングアウトは、もともと「クローゼットから出る（coming out of the closet）」ことを意味しています。クローゼットとは収納場所のこと。普段、使わないモノをしまっておく場所です。つまり、居住空間ではありません。人間が過ごす空間ではない場所のメタファー（たとえ）を使って、そこに閉じ込められている——クローゼットのなかにいる（in the closet）——状態から出ることが、カミングアウトする、という意味です。

本来、この言葉が生み出されてきた背景をたどってみると、カミングアウトは、「告白」というよりは、「表明」や「公言」と表現したほうが適切でしょう。というのも、「告白」という行為は、たいていの場合、語り手は、受け手が受け入れてくれることを期待して、なされるものだからです。語り手によって繰り出された言葉たちが、聞き手の側によって無視されたり、拒絶されたりすれば、「告白」は成立しません。聞き手の態度が場を決定するわけです。「告白」という行為には、語り手と聞き手のあいだに権力関係が介在していることがわかります。自分が同性愛者であることを誰かに伝えることは、誰かにその生き方や存在を“許してもらおう”ことではありません。許されなくとも、受け入れられなくとも、その人自身は、存在しているのですから。

■社会的行為としてのカミングアウト

さて、カミングアウトを同性愛者としての「表明」と表現しました。性的マイノリティとひとつに括られる存在のなかにも、さまざまなバリエーションがあります。カミングアウトが必要となるのは、外見では判断できない人びとです。たとえば、トランスジェンダーの人びとのなかには、生活上、性別を移行するために、すべてではないものの、外見で“わかる”場合があります。そのため、ここでは性的マイノリティというひとまとまりのグループとして表現することを避けました。

同性愛者の場合には、性的指向が同性に向いている——性的指向が異性に向いている人びとは「異性愛者」という名前がついています——だけなので、外見では異性愛者との区別がつきません。誰もが異性とつ

¹ 信仰とセクシュアリティを考えるキリスト者の会（ECQA）代表。
専攻は社会学、フェミニズム、キア神学。

がうことが“あたりまえ”だと思われている社会のなかでは、異性愛者だとみなされてしまうわけです。この点は、さほど、生存が脅かされるような大きな支障がないようにも思えますが、まだまだ国や地域によっては、同性愛者が刑法で罰されたり、弾圧されるような場面もあり、まさにカミングアウトが“命がけ”のような状況に置かれている人びともいます。

誰が誰とパートナーシップを育もうが、それはプライベートな問題だから、自分には関係ない。だから、わざわざ同性愛者がカミングアウトする意味がわからない——そんな声を聞くことがあります。しかし、いのちの危険にさらされてはいない人びとにとって、このような同性愛者に対する抑圧や差別を少しでも軽減することができる行為として、カミングアウトをとらえることも可能です。そのような意味において、カミングアウトとは、社会的な行為でもあるわけです。

■アメリカ合州国の事例から

社会的行為としてのカミングアウトの事例を挙げておきます。アメリカ合州国では、長らく、俗に「ソドミー法」と呼ばれる法律が多くの州で存在していました。ソドミー法は、広義には生殖に結びつかない性行為を禁止する法律、狭義には(おもに男性間の)同性同士の性行為を禁止する法律です。ちなみに、語源は、創世記19章にあるソドムの町の滅亡の物語から引用されています。しかし、聖書本文を読んでも、生殖に結びつかない性行為や同性間性行為を罪と定める内容には読み取れません。まさに「火のないところに煙が生じる」例のひとつでしょう。

1960年代から、同性愛者が人権を主張して、このような差別的な法律の撤廃のために運動を繰り広げていきます。いくつも記念すべき出来事はあるのですが、今回は「ナショナル・カミングアウト・デー」(毎年10月11日)というイベントをご紹介します。1988年からはじまり、いまは「ヒューマン・ライツ・キャンペーン」という性的マイノリティの権利擁護のために動いている大きな団体が事務局を務めています。ナショナル・カミングアウト・デーは、1987年10月11日に、レスビアン・ゲイ・ワシントン・マーチが開催されたことを記念して設定されました。同性愛者(レスビアン・ゲイ)のみならず、バイセクシュアルやトランスジェンダーの人びとなど、性的マイノリティが、クローゼットのなかから出てくることを奨励するイベントです。

といっても、もちろん、いのちの危険にさらされることもあるわけです。また、そのような危険にさらされることはなくとも、地域や家庭、学校や職場などの生活の場で孤立してしまうことも考えられます。ここでカミングアウトを奨励されるのは、社会に影響力をもつスポーツ選手やアーティスト、俳優など。すでに、社会的・経済的地位をもっている人びとです。知名度のある人びとが表明することによって、“わたしたちはどこにでもいる”というメッセージを社会に発していく。そんな意味を込めて、続けられているイベントでもあります。

ナショナル・カミングアウト・デイのロゴには、キース・ヘリング (Keith Haring / 1958~1990年) のイラストが使用されています(図参照)。

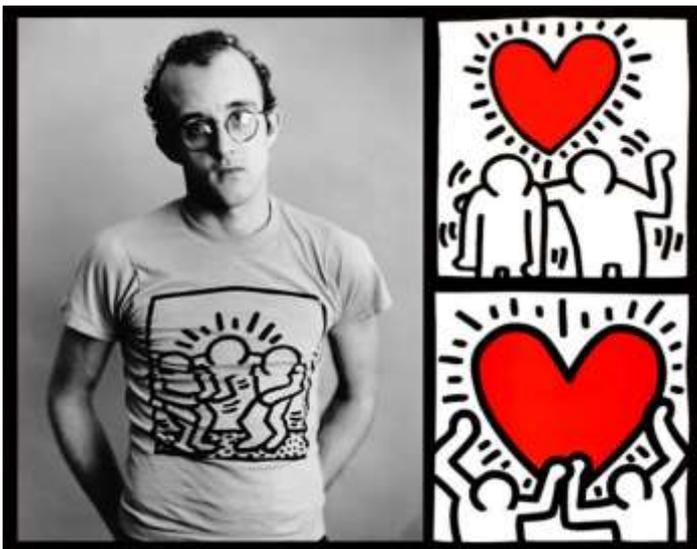
ニューヨークで活躍したストリート・アーティストであるヘリング。かれは1980年代にニューヨーク市の地下鉄に黒い画用紙を貼り、落書きをするという手法で活躍をしていました。かれ自身もゲイ男性であり、晩年はゲイ解放運動にコミットしてきたひとりです。HIVに感染し、エイズを発症した後、32歳でこの世を去りました。



昨今、ヘリングの作品は、日本でもいくつかのアパレル関係で量産されているので、多くの人びとに馴染みがあるものかもしれません。ヘリングがゲイの活動家として生み出してきた作品たちが大量生産されていくこと——そこに、“わたしたちはどこにでもいる”という解放運動のなかで使われてきた社会的行為としてのカミングアウトが広がっていった効果を読みとるべきなのか、あるいは、たんなるポップな消費財として文脈が失われている現実をクローゼットにふたたび引き戻す現象として読みとるべきなのか、とても悩ましいところではあります。

みなさんは、どのように読みとられるでしょうか。

(※この原稿は、さんまクラブ総会(2016年6月5日)時の講演内容の一部を書き起こしたものです。)



活動報告～土曜さんまクラブ～ (前半)

6/18 「いろいろなゼリーづくり」 始めに食品添加物や食品表示について学びました。「合成着色料の取りすぎはよくない！」と話した後に写真のような青いゼリーも作りました(笑) その他に牛乳ゼリー、フルーツゼリー、こんにゃくゼリーも作りました。



6/25 「タイダイTシャツづくり」

tie 縛る・結ぶ dye 染める・着色する
Tシャツを折ったり、輪ゴムで縛ったり、くるくる巻いたり、クシャクシャにしたり・・・
固着液(炭酸水素ナトリウム)に浸してからお湯でとかした反応染料をかけます。自分の好きな形、好きな色、世界にひとつだけのTシャツができました!



7/9 「いろいろなアイスづくり」

「寒剤」(小学校高学年の理科の授業で習うらしい!)でアイスをつくろう! ということで、まずは「寒剤」づくり。今回はいちばん身近なもので氷と塩を使いました。一瞬で温度がマイナスまで下がり、それを触って感じた後はひたすら混ぜる作業。暑い日だったからか1時間ほど混ぜ続けてやっとできあがりました!



7/16 「マイ箸づくり」

ずっと使えるものを・・・とっていたのですが、桜の木は固くなかなか思うようにはできませんでした。子どもたちはそれでも熱心に木を削ったりやすりをかけたり。作業に集中! でした。

活動報告～土曜さんまクラブ～ (後半)

9/10 「巨大ソーラーバルーン」



ゴミ袋を切ってテープでつなげて、みんなで協力して巨大なソーラーバルーンをつくりました。完成したものに扇風機で空気を入れ穴がないか確かめては修正を繰り返し園庭へ！太陽の熱でソーラーバルーン内の空気が暖められ空に浮かぶ仕組みになっています。この日は天気がよく、絶好のソーラーバルーン日和でした！



中でおやつを食べました→



9/24 「お菓子の家づくり」



食パンとクッキーやクラッカー、ポッキー、チョコレートなどを使って小さなお菓子の家を作りました。「どんな家にしようかな～？」とお友だちと相談したり「ちょっと味見！」と食べてみたり、笑顔

いっぱいの子どもたちでした。

出来上がった作品はおいしくいただきました！「お母さんやお父さんに見せたい」と持って帰る子もいました。

←ロボット？くるま？素敵な家の中にはこんなにユニークなものも混ざっていました★

次号で10月以降の報告をしますのでお楽しみに！

～活動報告～

夏休みさんまクラブ



今年度の夏休みさんまクラブは昨年度より5日間多く、7/25（月）～8/31（水）の平日26日間開催しました。総数34人とたくさんの申し込みがあり、大変盛況でした。

『みんなが笑顔になるおうち』の年間テーマのもと、「自分がされていやなことは他の子にもしない」「さんまハウス、おもちゃを大切に使う」この2つの約束を守ることと、朝の1時間は宿題の時間であることを子どもたちに話しました。後は全て子どもたちのしたいこと、やりたいことをじっくりゆったり取り組む時間です。秘密基地を作るのに1日中2階にいる子や、製作を楽しむ子、ザリガニ捕りをしたいと公園に出かける子、その他ミサンガ作りや塗り絵、カードゲーム、水遊びなど毎日様々な遊びを考え、取り組み楽しんでいました。午後には希望者みんなで歩いて市民プールにも行きました。

夏休み中、子どもたちは1日の大半をさんまハウスで過ごします。様々な小学校から様々な子どもたちが集い、同じ空間を共有します。気が合う友だちを見つけたり、時には（たくさん）喧嘩をしたり、毎日遊ぶわけではないけどなんとなく気にしたり。上級生が下級生に遊びを教えたり、怪我の治療をしてあげることもありました。この子は優しい、この子は怖い、あの子と遊びたい、あの子とは遊びたくない・・・こんな声が毎日聞こえてきましたが、それも関わりの中で子どもたちが感じた大切なことで、成長の基です。

一人ひとり同じ人はいませんが、どんな人でもどんな考えをもっていてもやっぱり「みんな一緒にいること」とても素敵なことだと感じました。子どもたちがたくさんの関わりの中で、たくさんの想いを育ててくれたと思っています。利用してくれた子どもたち、保護者のみなさま、またボランティアにきてくださった方々参加していただいたみなさまのおかげで素敵な「居場所づくり」ができたとおもいます。『みんなが笑顔になるおうち』になったと思います。

ありがとうございました。（夏）

←カブラ名人が作りました！！



自由遊び★



←砂場

→お散歩

↓水遊び



みんなで公園★ にいったよ!



← ↑ 水口幼稚園ひだまりの子たちと一緒に!



← ザリガニとりにいくよ!



おやつ時間!



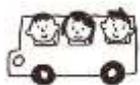
掃除も協力してるよ!



ひだまりのおともだちとも遊ぶよ!



↑ さすが小学生! 洗い物もします!



大人12人、子ども19人
計31人で永源寺へ!!
八日市めぐみ保育園にバスを
お借りしました。

← 川上信先生がボランティアと
バスの運転などお手伝いください

ました。
ありがとうございました。

永源寺に着くと「もう入っていいの？」
「まだ？」と荷物を置くのも忘れるほどドキドキワクワクの子どもたちでした。
一人ひとりライフジャケットを着用し、大人が見える所で遊ぶことを伝えいざ川へ！
予想外に川の水がとっても冷たく、「寒い！」と大きな岩に身体をくっつけ暖をとる
子、大半日向ぼっこに勤しむ子もいましたが・・・。網で魚をとったり、浮き輪を使
って泳いだり、高い岩の上からジャンプを楽しむなど様々な遊びを楽しみました。みん
なでお弁当を食べた後恒例の(?)スイカ割りをしました。5時間ほど川で楽しんだ子
どもたちでしたが「もう帰るの?」「もうちょっといよう~」とまだまだ遊びたい様子で
した。それでも帰りのバスはみんな爆睡(笑)子どもたちの笑顔がたくさん見られた遠
足になりました。たくさんのボランティアのみなさまのおかげで、一人も怪我なく過ご
すことができました。ありがとうございました。



岩からジャンプ!!!

↓↑さかなとり☆



お弁当↓→



スイカ割り↓↓

目隠しをして10回その場で
まわります。その後周りの
かけ声でスイカの方へ。
みんなふらふら~で
スイカと逆方向に行く子も!



素敵な笑顔☆



8月26日
クッキング★
~焼き野菜カレー~

野菜むき・切りコーナー

玉ねぎ、にんじん、じゃがいもの皮むきをし、包丁を使って
野菜を切りました。その他、パプリカ、オクラ、ナス、かぼちゃなどの

夏野菜も切りました。普段家でもお手伝いをしているとのことでもみんなとても上手でした。中には指を切ってしまった子どももいますが、それも大事な経験のひとつ!! 包丁の危険を学びました。



お米洗い～カレー煮込みコーナー

台所ではお米を洗ったり、大きなお鍋に切った野菜を入れてカレーを煮込みました。



ご飯を炊き・野菜焼きコーナー

さんまハウスの外ではストーブかまどを設置して火を起こし、ご飯を炊きました。バーベキューコンロも設置し、みんなで切った夏野菜とウィンナーを焼きました。焼加減を慎重に確認! 夏の太陽が照りつける中、みんな汗だくになりながら作業をしていました。



いただきます!

炊き上がったご飯に煮込んだカレーをかけ、自分の好きな焼野菜を選んでのせ完成!! 自分の好きな場所で食べました。みんなで協力して作ったカレーは絶品! おかわりもたくさんしました。



次年度の夏休みさんまもご参加お待ちしております!

2016 年度会費納入者・寄付者氏名 (敬称略、50 音順) 3/15~11/16

◆正会員受取会費： 赤穂政憲、浅野献一、池田純平、石田原さやか、石塚節子、石橋秀雄、入江慶、上田俊子、鶴飼典子、



梅崎浩二、大川清、大川大地、岡部智光、奥山栄一、大谷和雄、大谷元宏、片岡公子、片岡自由、片岡広明、上村万里子、川上幹太、川上信、川口義彦、木村和広、坂本明子、寒川公子、所司弘造、菅恒敏、高瀬元通、谷涵、谷文子、谷口ひとみ、谷村徳幸、谷村耕太、千葉宣義、津田智恵子、角田啓子、中村深鈴、西村二郎、西本忠義、平野明子、福澤祥、福永智子、藤原忠昭、堀江有里、村田敏、森美佐子、守岡英子、守岡健雄、安田和人、柳谷舟子、山田哲史、横田明典

◆**賛助会員受取会費**： 東昌吾(3口)、板垣弘毅、稲村守、植田清一郎、上村静、大谷元宏、小田原緑、川島洋一、北尾菫、北尾弘汰、北尾貞弘、北垣景子、北川博司、北脇昇、木下栄美子、神山登美子、小林明、首藤あかり、竹内宙、田村信征、續時子、中井正子、林登子、原田孝行、NPO 人と人および人と自然をつなぐ企画、廣瀬規代志、藤岡正人、藤田結香、本多香織、三谷一夫(2口)、三谷一子(2口)、宮田誉夫、宮田登貴子、森田ヤス子

◆**受取寄付金**： 浅野献一、池田純平、石田輝美②、石田原さやか、板垣弘毅、稲村守、鶴飼典子、大川大地③、小田原緑、片岡公子④、上村万里子、川上信③、日本基督教団京都教会、日本基督教団京都教会・子どもの教会、日本基督教団草津教会、黒田実穂、神山登美子、小林明、寒川公子、菅恒敏、高瀬元通、田中守、谷口ひとみ、谷村耕太、谷村徳幸③、千葉宣義、町内会匿名氏、津田智恵子、中井正子、西本忠義、橋本小与里、林登子、原田孝行、平野隆、廣瀬規代志、福澤祥②、日本キリスト教団伏見教会・子どもの教会、水口教会、水口教会・子どもの教会、三谷一夫、三谷一子、宮田誉夫、宮田登貴子、日本基督教団室町教会、守田茂、守田藤真、柚口美保

みなさまのご支援、ご協力に心より感謝いたします！

編集後記

- ▲ニュースレター「さんま」の第9号(2016年冬号)をお届けいたします。
- ▲今回も当法人監事の川上幹太さんの4コマ漫画、当法人理事の堀江有里さんによる連載「『居場所』を考える」を掲載させていただきました。お二人ともお忙しい中ご尽力くださりありがとうございます。
- ▲今号は放課後さんまクラブ・土曜さんまクラブの報告、加えて夏休みさんまクラブの報告を掲載しています。日々の活動の様子を知っていただけたらと思います。どうぞお読みください。
- ▲みなさまのご支援とご理解、お支えを頂いてなんとか現在に至りますが、まだまだ私たちの力不足により、大変厳しい財政環境が続いております。「クリスマス献金のお願い」を同封させていただきました。今後ともより一層のお力添えを、何卒よろしくお願いいたします。
- ▲年末ご多忙の折ではございますが、お体にお気をつけて良き年をお迎えください。(夏)

NPO さんまクラブ

理事長：谷村徳幸 スタッフ：谷村耕太(施設長)、廣田夏実(現場主任代理)、
満田寿美子(事務局長代理)

〒528-0022 滋賀県甲賀市水口町梅が丘5-2

TEL：0748-76-3414 Fax：0748-76-3413

E-mail：3ma.club@gmail.com

ホームページ：<http://3ma-club.com/>

郵便振替口座

00910-7-202663

「特定非営利活動法人さんまクラブ」